



日本小児歯科学会九州地方会 設立20周年を祝して

福岡歯科大学成長発達歯学講座

成育小児歯科学分野教授 本 川 涉

このたび日本小児歯科学会九州地方会設立20周年を迎えるにあたり、歴代会長として心からお慶び申し上げます。

私は、中田 稔教授の後を引き継いで平成12年4月から2年間、6代目の会長として皆様のお話をさせていただきました。丁度、20世紀から21世紀の橋渡しの大切な時期に会長をお引き受けしたわけですが、設立以来、大学教授が会長を務めていましたが、私の後の会長には、初めて開業医の先生の中から会長を選任することができました。長年、開業医の先生が中心となり、それを大学がサポートするような地方会を待望していた私としては、20年目にしてその時期が来たことは大変喜ばしく存じます。

思い起こせば、昭和48年に西日本地区で最初の小児歯科学講座が福岡歯科大学に開設され、30年が過ぎました。それまでは、福岡歯科大学の吉田教授が会長として福岡歯科大学小児歯科学講座と開業医の先生方からなる西日本小児歯科集談会が発足し、米国から小児歯科専門医や全国の歯科大学小児歯科学教授を招いての研修会や講演会が企画され、小児歯科学の啓蒙に努められました。その後、約10年以内に九州大学、九州歯科大学、長崎大学ならびに鹿児島大学に小児歯科の講座が開設され、日本小児歯科学会九州地方会がスタートしたわけです。その当時は、まだ小児の齲蝕の洪水の時代であり、経済も右肩上がり、歯科界もいい時代であったと思います。しかし、その当時には、今の閉塞感が漂ったこの時代を予測することは困難であったと思います。すなわち、わが国における急速な少子高齢化や疾病構造の変化が我々小児歯科医療に携わる者に大きな影響を与えています。今の小児歯科を取り巻く社会環境は大変厳しいものがありますが、我々は21世紀の日本の将来を担う子供たちのために、小児科がたどった道を歩まないように何とか光明を見出していきたいものと思います。

小児歯科に従事する歯科医師の質を高めるために日本小児歯科学会認定医制度が発足し、また、資格更新に際しての条件も厳しくなりました。今後は特に地方会が更新に際しての会員の皆様の発表の場として重要な意義を持つものと考えます。そして会員相互の情報交換の場としてさらに地方会が活性化されることを希望します。今後の九州地方会の発展と会員の皆様のご活躍ならびにご健勝を祈念申し上げます。